自然環境

1　掛川市の自然環境の概要

(1) 植生

ア　掛川市の植生現況

掛川市の緑被率（樹林地、草地、農耕地等の何らかの緑で覆われた地域の割合）は、市全域の75.0％に達しています。区域別に見ると掛川区域では森林の割合が高く、大東・大須賀区域では森林と農耕地の割合がほぼ均衡しています。小学校区で比較すると、緑被率は市域の北部や南部では高く、ＪＲ掛川駅周辺の市街地では低くなっています。

また、森林が市全域の47.6％を占めておりますが、静岡県の65％、全国の67％(静岡県の農林水産業ハンドブック　平成13年　静岡県)と比較すると低くなっています。森林の植生状況はスギ・ヒノキの人工林が森林の70.7％を占め、地域の潜在自然植生に近い自然林は森林の僅か0.02％です。

イ　植生区分ごとの現況

(ｱ) 自然林

原生林(過去において一度も人間による破壊を受けていない林)はないものの、伐採の後、天然更新がされ、林齢が古く、地域の潜在自然植生に近いシイ、タブ、カシ等の自然林は、原泉の大尾山や八高山と曽我・上内田・土方の小笠山、日坂の粟ヶ岳の阿波々神社等にありますが、その割合は市内の植生の0.01％とごく僅かです。

(ｲ) 二次林

アカマツ林やコナラ・シイ等の広葉樹や竹林等からなる二次林は、市内の植生の18.5％を占め、地域的には原泉や倉真等の森林地帯より、曽我や大東、大渕、横須賀等の小笠山周辺と遠州灘海岸に防風林として多く残っています。

これらの地域の森林はかつて住宅の裏山として、薪炭を採集したマツ林であったと考えられますが、マツ林は、マツノザイセンチュウによるマツ枯れで、コナラ・シイ等の広葉樹の林に変わってきており、現在は極めて少ない面積で点在するのみとなっています。

(ｳ) 人工林

スギやヒノキを植林した人工林は、市内の植生の44.9％を占めています。

また森林の中で人工林が占める割合を示す人工林比率は70.7％と高く、静岡県の59％、全国の46％(静岡県の農林水産業ハンドブック　平成13年　静岡県)を大きく上回っています。

掛川区域では人工林の割合が73.9％と極めて高く、大東・大須賀区域でも人工林は森林全体の1/2を占めていますが、掛川区域と比べると二次林の割合が高くなっています。

市内で人工林の割合の高い地域は、原泉（84.3％）、桜木（82.7％）、倉真（79.9％）等の小学校区で、大東・大須賀区域では、土方、佐束、大渕、横須賀で人口林率が高かったが、いずれも60％台でした。

(ｴ) 草地

ススキやササからなる草地は、掛川区域では茶園の敷き草採取のための草刈場として維持されています。粟ヶ岳周辺の東山、倉真に多く見られ、日坂や原泉、原田等にも存在します。面積は68.7haと狭いですが、キキョウやハルリンドウ等、草地特有の植生を有するため貴重な自然環境となっています。

一方、大東・大須賀区域の草地は、河川の高敷堤防内や遠州灘海岸の防風林の後背湿地を埋め立てた後に出来た草地です。河口や海岸部に林の後背地にあった湿地には多くの貴重な植物が生育していましたが、現在は埋め立てられ、工場、公共施設の建設や農地造成により、その多くが消失しました。

(ｵ) 耕地

掛川市における耕地の割合は、市全域では25.4%を占めており、掛川区域では22.6%と低く、大東区域では34.7%、大須賀区域28.1%と高くなっています。

小学校区では、和田岡61.2%、千浜42.5%、佐東37.8%、上内田37.1%、中35.2%が高くなっています。

全体の利用状況は、茶園や果樹園、野菜畑などの畑が63.2%を占め、水田の35.8%より高くなっており、地域別では、掛川・大須賀区域は水田に比べ畑の比率が高く、大東区域は水田の比率が高くなっています。

(ｶ) 公園内等の植栽地

植栽がされている公園面積は、市全域でも0.29haと極めて少なく、住宅地の多い第一小学校区ではごく僅かしかありません。

(ｷ) 海岸

遠州灘海岸は砂浜で、砂浜特有の植生を有しアカウミガメの産卵場となっています。近年、海面の上昇やダムによる土砂の流出減少等による砂浜の浸食が起こりつつあります。

また、海岸の防風林であるマツ林では、飛砂によるマツ林の埋没やマツノザイセンチュウによるマツ枯れが進んでいます。

(2) 鳥獣保護区の位置

掛川市内には、鳥獣保護及び狩猟に関する法律で指定されている鳥獣保護区は全５か所、銃猟禁止区域は全11か所あります。

掛川市の鳥獣保護区

名　　称	面積(ha)	期　限
東山口鳥獣保護区	1,350	H23.10.31
大代鳥獣保護区（含島田市）	1,059	H25.10.31
遠州灘鳥獣保護区（含御前崎市、袋井市、磐田市）	5,261	H24.10.31
小笠山鳥獣保護区（含袋井市）	2,507	H22.10.31
桜木上垂木鳥獣保護区	1,090	H21.10.31
計	11,267	

掛川市の銃猟禁止区域

名　　称	面積(ha)	期　限
大坂地区銃猟禁止区域	219	H23.10.31
飛鳥銃猟禁止区域	551	H27.10.31
大渕地区銃猟禁止区域	91	H25.10.31
幡鎌銃猟禁止区域	115	H28.10.31
西大谷ダム公園銃猟禁止区域	51	H19.10.31
西田町南部銃猟禁止区域	30	H19.10.31
逆川銃猟禁止区域	264	H19.10.31
東山口銃猟禁止区域	346	H20.10.31
倉真銃猟禁止区域	144	H20.10.31
土方銃猟禁止区域	125	H20.10.31
国包銃猟禁止区域	34	H20.10.31
計	1,970	

(3) 県立自然公園

県立自然公園は県の風景を代表する傑出した自然の風景地ということで、静岡県立自然公園条例により県内４区域を静岡県知事が指定しており、掛川市には、御前崎遠州灘県立自然公園として下記の地区が指定されています。静岡県立自然公園条例により、県立自然公園特別地域内では下記の動植物の捕獲や採取等が規制されています。

ア　掛川市内の御前崎遠州灘県立自然公園の状況

名　　称	面積(ha)	備　　考
遠州灘海岸地区	236.7	第２種特別地域
高天神地区	46.0	第２種特別地域
大浜公園地区	30.0	第３種特別地域

※県立自然公園特別地域…県立自然公園は、特別地域と普通地域があり、特別地域の中には、風致の維持や農林業との調整の必要性などにより第１種特別地域、第２種特別地域、第３種特別地域に分類されている。
第１種…風致を維持する必要性が最も高く現在の景観を極力保護することが必要な地域。
第２種…第１種及び第３種特別地域以外の地域であって、特に農林漁業活動について努めて調整を図ることが必要な地域。
第３種…特別地域のうちでは、風致を維持する必要性が比較的低い地域であって特に通常の農林漁業活動については原則として風致の維持に影響を及ぼす恐れが少ない地域。

イ　御前崎遠州灘県立自然公園特別地域で捕獲や採取等を規制する動植物

種　類	種　　名
動　物	カジカガエルほか（全３科　３種）
植　物	ハマボウほか　　（全64科166種）

ハマボウ

(4) 動植物の分布状況

ア　植物

掛川市では、今まで185科1712種58変種70品種の植物が記録されています。

それらのうち希少な植物としては、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　植物Ｉ」（環境庁　2000）及び「まもりたい静岡県の野生生物　植物編」（静岡県　平成16年）に記載された種のうち100種が記録されています。中でもチャボハナヤスリやフサタヌキモ等は、ごく近い将来における絶滅の危険が極めて高いとされる絶滅危惧ＩＡ類です。静岡県においては掛川市のみで生育が確認されたスジヒトツバ等の希少な植物も記録されています。それらのうち、本調査で生育が確認できた希少な植物は27種でした。

また、掛川市の天然記念物は、静岡県指定天然記念物が５件、掛川市指定の天然記念物は21件指定されています。

掛川市の県指定天然記念物

No.	名　　称	指定年月日	所在地	所有者
1	大尾山　鳥居スギ	昭和33年４月15日	居尻	顕光寺
2	峯貝戸の大クワ	昭和33年10月30日	東山	杉山寛
3	伊達方の大ヒイラギ	昭和46年８月３日	伊達方	渡辺君江
4	本勝寺ナギ・マキの門	昭和49年４月18日	川久保	本勝寺
5	中新井池のオニバス	昭和58年２月25日	大渕	掛川市

掛川市の市指定天然記念物

No.	名　　称	指定年月日	所在地	所有者
1	西大渕大松	昭和48年３月28日	西大渕	西大渕地区
2	興禅庵マキの自然門	昭和50年８月15日	岩滑	興禅庵
3	事任八幡宮の大スギ	昭和55年８月20日	八坂	事任八幡宮
4	垂木の大スギ	昭和55年８月20日	上垂木	六所神社
5	高天神追手門跡スギ	平成２年４月６日	上土方嶺向	高天神社
6	小笠神社参道スギ	平成２年４月６日	入山瀬	小笠神社
7	今龍寺イヌマキ２本	平成２年４月６日	今滝	今龍寺
8	今龍寺ソテツ２本	平成２年４月６日	今滝	今龍寺
9	ボタイジュ	平成２年４月６日	高瀬	伊藤文彦
10	春日神社クスノキ	平成２年４月６日	中方	春日神社
11	満勝寺イチョウ	平成２年４月６日	中	満勝寺
12	永福寺イヌマキ	平成３年５月13日	千浜	永福寺
13	本勝寺カヤ２本	平成３年５月13日	川久保	本勝寺
14	事任八幡宮のクスノキ	平成12年２月24日	八坂	事任八幡宮
15	居尻のイスノキ	平成12年２月24日	居尻	佐藤績
16	松葉のカヤ	平成12年２月24日	倉真	佐藤紀夫
17	阿波々神社の社叢	平成12年２月24日	初馬	阿波々神社
18	久居島のリンボク	平成15年３月26日	久居島	高野三郎
19	如意庵のソテツ	平成16年１月28日	西大渕	龍眠寺
20	弁慶松（クロマツ）	平成16年１月28日	西大渕	掛川市
21	秋葉路のモッコク	平成16年３月22日	秋葉路	秋葉路区

掛川市において本調査で生育が確認された希少植物

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	スジヒトツバ	絶滅危惧ＩＢ類	－	2
2	フジタイゲキ		絶滅危惧ＩＡ類	1
3	ミズニラ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	1
4	オニバス		絶滅危惧Ⅱ類	3
5	カギガタアオイ		絶滅危惧ＩＢ類	3
6	オオヤマツツジ		－	1
7	ガガブタ		絶滅危惧Ⅱ類	1
8	トラノオスズカケ		－	4
9	キキョウ		絶滅危惧Ⅱ類	3
10	ヒメヒゴタイ		絶滅危惧Ⅱ類	1
11	タカサゴソウ		絶滅危惧Ⅱ類	1
12	クマガイソウ		絶滅危惧Ⅱ類	4
13	ハルザキヤツシロラン		絶滅危惧Ⅱ類	1
14	ナギラン		絶滅危惧Ⅱ類	2
15	フウラン		絶滅危惧Ⅱ類	1
16	タコノアシ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	1
17	ミズマツバ		絶滅危惧Ⅱ類	1
18	クサナギオゴケ		絶滅危惧Ⅱ類	2
19	タチキランソウ		準絶滅危惧	2
20	クロヤツシロラン		絶滅危惧ＩＢ類	9
21	ウスギムヨウラン		準絶滅危惧	5
22	キンラン		絶滅危惧Ⅱ類	8
23	シラン		準絶滅危惧	3
24	エビネ		絶滅危惧Ⅱ類	7
25	セッコク		－	3
26	エダウチホングウシダ	要注目種（Ｎ－Ⅲ）	－	1
27	アケボノシュスラン		－	2

クマガイソウ

スジヒトツバ

イ　鳥類

掛川市における鳥類は、18目53科204種、外来種２目３科３種が記録されています。

それらのうち希少な鳥類としては、「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」（平成４年６月）において国内希少野生動植物種に指定されているクマタカ、オオタカ、イヌワシ、ハヤブサの４種や、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　鳥類」（環境省 2002）及び「まもりたい静岡県の野生生物　動物編」（静岡県　平成16年）に記載されている種のうち55種が記録されています。そのうち、本調査で生息が確認できた希少鳥類は27種でした。

コアジサシ

サシバ

掛川市において本調査で生息が確認された希少鳥類

№.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	ヨシゴイ	絶滅危惧ⅠＢ類	－	2
2	ミゾゴイ		準絶滅危惧	5
3	コアジサシ		絶滅危惧Ⅱ類	1
4	アカショウビン		－	2
5	サンショウクイ		絶滅危惧Ⅱ類	4
6	ハチクマ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	4
7	オオタカ		絶滅危惧Ⅱ類	10
8	ハイタカ		準絶滅危惧	2
9	サシバ		－	16
10	クマタカ		絶滅危惧ⅠＢ類	6
11	ハヤブサ		絶滅危惧Ⅱ類	1
12	タマシギ		－	1
13	シロチドリ		－	3
14	タカブシギ		－	2
15	ホウロクシギ		絶滅危惧Ⅱ類	1
16	アオバズク		－	1
17	コサメビタキ		－	1
18	ヤマドリ	準絶滅危惧	－	4
19	タゲリ		－	1
20	フクロウ		－	1
21	アリスイ		－	1

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
22	コシアカツバメ	準絶滅危惧	－	2
23	サンコウチョウ		－	13
24	ミヤマホオジロ		－	1
25	ヤマシギ	現状不明	－	1
26	ノビタキ	要注目種（N－Ⅱ）	－	2
27	ミサゴ	要注目種（N－Ⅲ）	準絶滅危惧	2

ウ　魚類

掛川市では、12目28科73種の魚類が記録されています。

それらのうち希少な魚類としては、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　汽水・淡水魚類」（環境省　2003）及び「まもりたい静岡県の野生生物」（静岡県　平成16年）に記載された種のうち10種が記録されています。そのうち、本調査で生息が確認できた希少な魚類は３種でした。

掛川市において本調査で生息が確認された希少魚類

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	ホトケドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ＩＢ類	12
2	メダカ	準絶滅危惧	絶滅危惧Ⅱ類	48
3	カワムツ	要注目種（N－Ⅱ）	－	36

ホトケドジョウ

エ　両生・爬虫類

爬虫類は２目８科16種、両生類では２目５科12種が記録されています。それらのうち希少な種としては、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　爬虫類・両生類」（環境省 2000）及び「まもりたい静岡県の野生生物」（静岡県　平成16年）に記載された種のうち爬虫類６種、両生類５種が記録されており、なかでもアカウミガメは遠州灘の海岸侵食や砂浜への車の乗り入れ等により産卵場の環境悪化が危惧されています。本調査で生息が確認できた希少な爬虫類は３種、希少な両生類は５種でした。

アカウミガメ

掛川市において本調査で生息が確認された希少爬虫類

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	アカウミガメ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧Ⅱ類	1
2	ニホントカゲ	要注目種（Ｎ－Ⅱ）	－	9
3	クサガメ	要注目種（Ｎ－Ⅲ）	－	2

掛川市において本調査で生息が確認された希少両生類

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	ニホンアカガエル	絶滅危惧Ⅱ類	－	10
2	モリアオガエル	準絶滅危惧	－	3
3	カジカガエル		－	5
4	アズマヒキガエル	要注目種（Ｎ－Ⅲ）	－	20
5	トノサマガエル		－	35

オ　哺乳類

哺乳類は６目12科23種の確認記録があります。

それらのうち希少な種としては、「まもりたい静岡県の野生生物」（静岡県　平成16年）において準絶滅危惧種とされた種が２種、静岡県において自然保護上注目すべき種として部会注目種とされた種が１種記録されています。本調査で生息が確認できた希少な哺乳類は３種でした。

また、近年北部山間部で確認情報が多い二ホンカモシカは、文化財保護法による天然記念物に指定されています。

掛川市において本調査で生息が確認された希少哺乳類

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	ムササビ	準絶滅危惧	－	1
2	カヤネズミ		－	3
3	ニホンリス	要注目種（Ｎ－Ⅲ）	－	1

カ　昆虫

昆虫は掛川市全域にわたっての調査は行なわれていませんが、小笠山や菊川等の調査では10目167科1163種が記録されています。

それらのうち希少な種としては、環境省レッドリスト及び「まもりたい静岡県の野生生物」（静岡県　平成16年）に記載された種のうち８種が記録されています。中でもカケガワフキバッタは、その学名（Parapodisma Awagatakensis Ishikawa 1998）に粟ヶ岳という名がつき粟ヶ岳の草地で採集された個体が基準標本となっています。本調査で生息が確認できた希少な昆虫は３種でした。

掛川市において本調査で生息が確認された希少昆虫

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	カケガワフキバッタ	準絶滅危惧	－	1
2	ヘイケボタル		－	1
3	コオイムシ	要注目種（N－Ⅲ）	－	1

カケガワフキバッタ

キ　淡水貝類

掛川市における淡水貝類の正式な記録はありませんが、聞き取り調査などから得た資料により掛川市で生息の記録がある希少な淡水貝類としては、「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物　陸・淡水産貝類」（環境省　2003）及び「まもりたい静岡県の野生生物」（静岡県　平成16年）に記載された種のうち３種です。本調査で生息が確認できた希少な淡水貝類は３種でした。

掛川市において本調査で生息が確認された希少淡水貝類

No.	種　　名	県カテゴリー	環境省カテゴリー	確認地点数
1	マルタニシ	準絶滅危惧	準絶滅危惧	3
2	モノアラガイ		準絶滅危惧	3
3	カラスガイ	－	準絶滅危惧	1

２ 指定希少野生動植物種及び保護地区の指定について

(1) 指定希少野生動植物種の指定

ア　指定希少野生動植物種

(ｱ) 特に保護が必要な希少野生動植物を指定希少野生動植物種として指定。

(ｲ) 指定種の捕獲等（捕獲、採取、殺傷又は損傷）は、原則禁止。

(ｳ) 指定種の指定は、あらかじめ自然環境保全審議会の意見を聴かなければならない。

イ　指定希少野生動植物種の選定方針

県内において生息・生育が希少な種であり、市内における生息・生育状況が人為の影響により存続に支障を来す事情があると判断される種で、以下のいずれかに該当するものを選定した。

① 個体数が著しく少ない。

② 個体数が著しく減少しつつある。

③ 主要な生息・生育地が消滅しつつある。

④ 生息・生育環境が著しく悪化しつつある。

⑤ 過度な捕獲・採取圧がある。

ウ　指定希少野生動植物種

審議会として、以下の15種を選定した。

植物：７種、鳥類：５種、魚類：１種、昆虫：１種、は虫類：１種

	番号	種　　名	県カテゴリー	国カテゴリー	市内確認地点数	選定理由
植物	1	スジヒトツバ	絶滅危惧ⅠＢ類	－	2	①②　④⑤
	2	フジタイゲキ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＡ類	1	①②③④
	3	オニバス	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	3	①②③④
	4	キキョウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	2	②③④⑤
	5	クマガイソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	4	②③④⑤
	6	ナギラン	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	3	①②③　⑤
	7	タカサゴシダ	分布上注目種等	－	1	①②③
鳥類	8	ミゾゴイ	絶滅危惧ⅠＢ類	絶滅危惧ⅠＢ類	3	①②③
	9	アカショウビン	絶滅危惧ⅠＢ類	－	2	①②③
	10	オオタカ	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	10	①②③④
	11	サシバ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類	15	②③④
	12	クマタカ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類	6	①②③④
魚類	13	ホトケドジョウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧ⅠＢ類	11	②③④⑤
昆虫	14	カケガワフキバッタ	準絶滅危惧	－	1	②③④
は虫類	15	アカウミガメ	絶滅危惧ⅠＡ類	絶滅危惧Ⅱ類	1	②③④⑤

※　選定理由の番号はイの選定方針に基づく。■は特に影響が大きいもの。

(2) 保護地区指定

ア　自然環境の保全に関する条例の保護地区について

(ｱ) 希少野生動植物種の生息・生育が確認されている区域のうち、一体的に保護を図る必要がある区域であって、その分布状況及び生息生育状況等を勘案し重要なものを保護地区として指定する。

(ｲ) 保護地区内での行為を事前届出制とし、必要な措置等について助言・指導する。

(ｳ) 保護地区の指定は、あらかじめ自然環境保全審議会の意見を聴かなければならない。

イ　東山地区粟ヶ岳の指定希少野生動植物種保護地区指定について

(ｱ) 対　象

フジタイゲキ生育地、カケガワフキバッタ生息地

(ｲ) 現　況

①粟ヶ岳中腹のススキ等と同じ場所に生育し、茶畑の下草用の草刈り場となっている。

②毎年秋に茶畑の下草として刈り取りが行われている。

(ｳ) 所有者

個人（８名）及び東山財産区

(ｴ) 位置及び面積

粟ヶ岳南斜面の一部　1.8ha

フジタイゲキ

カケガワフキバッタ

ウ　板沢地区小笠山の指定希少野生動植物種保護地区指定について

(ｱ) 対　象

スジヒトツバ生育地

(ｲ) 現　況

谷間の湿度の高い岩壁に着生して群落をつくって生育する。

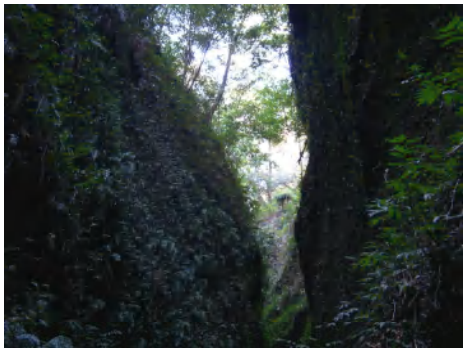
(ｳ) 所有者

板沢財産区

(ｴ) 位置及び面積

小笠山の一部　5.25ha

スジヒトツバ



生育地（小笠山）